

平成28年度 狭山市立入間野小学校自己評価書

1 本年度の重点目標

- (1) 学校課題研究 国語「付けたい力を明確にし、読む力を高める国語科の創造」の実践
- (2) 知識・技能の確実な習得と活用する力の育成
- (3) 運動の日常化と進んで運動する児童の育成
- (4) よりよい人間関係を築き、協力し自主的に活動する児童の育成
- (5) 積極的な学校応援団・SSVCの活用による教育活動の充実
- (6) 安心・安全な学校づくりの推進
- (7) 職員室の美化と美しい言葉づかいによる教育環境の整備
- (8) 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の推進
- (9) 教職員の人材育成

2 本年度の経営方針

教職員一丸となって、児童一人一人と集団をよりよく変容させ、学校への信頼を得る

3 自己評価結果

【評価の目安】 A：よくできている(90%) B：概ねできている(75%) C：あまりできていない(60%) D：できていない(60%未満)

項目	観 点	達成状況	改 善 の 方 策	
	1 学校教育目標 (知・徳・体の調和のとれた児童の育成)		<ul style="list-style-type: none"> 所属する集団のために考え行動する児童の育成のため、来年度は、「仲よくする子」に重点を置いて指導する。 	
1	「仲よくする子」は具現化できたか。(目を見て挨拶、「オアシスこ」が言える、集団のために考え行動できる。)	B		
2	「考える子」は具現化できたか。(届く声で話す、文字を丁寧に書く、進んで家庭学習や読書に取り組む。)	B		
3	「やりぬく子」は具現化できたか。(あきらめず時間いっぱい取組、進んで運動する、危機管理能力を身に付ける。)	B		
	2 教育課程 (学力向上プランの推進)		<ul style="list-style-type: none"> 本年度学校課題研究として、「単元を貫く言語活動による国語科授業研究」に全校一丸となって取り組んだ。学力向上、読書量増加等、その成果は大きい。ここで得た教育財産を生かし、引き続き指導を重ねていく。 全学級に、暗幕を設置したことにより、ICTの活用が、より効果的となり、推進が図られた。引き続き、デジタル教科書や書画力メウを利用し、児童の思考を深める一助とする。 学習課題の明示はできているが、児童の言葉によるまとめができるよう、展開の終末の時間を確保する。 学校独自の「家庭学習の手引き」は、引き続き活用し、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図る。 	
4	確実に補充を行う国語タイムと算数タイムに取り組むことができたか。	B		
5	習熟の程度に応じた算数科の少人数指導はできたか。	B		
6	下敷きと消しゴムを使用したノート指導はできたか。	B		
7	「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣化はできたか。	C		
8	正しい姿勢と返事の仕方、統一した号令はできたか。	B		
9	見直しの仕方を身につけ、時間いっぱいテストに取り組む態度を育成できたか。	B		
10	問題解決的な学習過程はできたか。	B		
11	学習のめあての明示と児童のこぼれによるまとめはできたか。	C		
12	単元を貫く「言語活動」による国語科指導はできたか。	A		
13	ICTを効果的に活用した授業はできたか。	B		
14	並行読書や家庭学習の習慣化により、2週間に1冊以上本を読むことができたか。	B		
	3 道徳教育(豊かな心の育成プランの推進)			<ul style="list-style-type: none"> 校内夏季研修に、指導者を招聘し、ねらいとする価値を高める、ぶれのない指導方法を研修した。引き続き、発問を精選し、研修した指導方法を生かして指導していく。
15	全体計画を理解し、全教育活動を通して道徳教育を実践できたか。	B		
16	道徳の時間が児童の実態把握に基づき、計画的に実践できたか。	B		
17	ねらいとする価値を高める道徳の授業が実践できたか。	B		
	4 生徒指導(豊かな心の育成プランの推進)		<ul style="list-style-type: none"> 一貫した生徒指導を組織的に行い、規律ある態度の確立が同一歩調でなされている。引き続き個別の支援や対応が必要な児童に対して、早期に発見・協議・検討し、保護者や地域、関係機関とも連携した対応をしていく。 	
18	講話朝会と学校のきまりによる一貫した生徒指導ができたか。	B		
19	校長講話から発達段階に応じ、学年・学級への指導ができたか。	A		
20	児童の実態の共通理解と時機を逃さない教育相談や就学相談、ケース会議ができたか。	B		
21	「時間いっぱいもくもくびかびか」を合言葉にした清掃指導ができたか。	B		
	5 交流教育(豊かな心の育成プランの推進)		<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での交流活動を始め、より意義を高めた内容や活動を求めた異校種間で交流活動ができつつある。地域のお年寄りとの交流も含め、今後も引き続き充実させていく。 	
22	様々な交流活動を通して、体験的に学ぶ学習活動の充実はできたか。	B		
23	異年齢集団による効果的な交流活動はできたか。	B		
	6 特別活動(豊かな心の育成プランの推進)		<ul style="list-style-type: none"> 計画委員会への指導や学級会の基盤づくりへの指導が不十分であるため、計画的な指導の積み重ねができなかった。指導方法の基礎から学び、全校挙げて取り組んでいくようにする。 	
24	折り合いをつけ実践に結びつく学活(1)の指導はできたか。	C		
25	学級経営案の「学級における指導計画」に基づき、学級活動は計画的に行うことができたか。	C		
26	児童会活動やクラブ活動は計画的に実施され、児童の自主的・実践的な態度が育成できたか。	B		
27	学校行事は適切に実施することができたか。	B		

	7 体力向上の維持増進(体力向上プランの推進)		
28	基礎基本を確実に定着させた、より楽しい体育の授業づくりができたか。	B	・体育部で、朝マラソンについて、改善し、全校で取り組んでいる。体力テストの結果は、健康手帳に貼りつけ、自己目標が立てやすいように工夫している。成果が出始めている。
29	進んで運動に親しませるための朝マラソンの取組ができたか。	B	
	8 保健健康安全(体力向上プランの推進)		
30	健康・安全についての理解が深まり、習慣化されるように指導できたか。	B	・不審者対応に避難訓練を始め、基本的な初期動作が身に付き始めている。引き続き、実践を積み重ね、児童一人一人がしっかり身につくようにしていく。
31	保健目標を意識した健康指導ができたか。	B	
32	交通安全指導は、継続的・効果的に実施することができたか。	B	
33	避難、引取り、AEDを使用した訓練を実施し、確認した行動がとれるようになったか。	B	
	9 学年・学級経営		
34	学校・学年・学級経営の方針に基づき一貫性のある経営ができたか。	B	・学年会を、報告・連絡・相談だけでなく、指導方法の研修の場として資質向上を図ることができた。集団生活の楽しさを味わわせる学級経営に更に心がける。
35	意図的・計画的に学年・学級経営を進めることができたか。	B	
36	児童の自己実現を図る場を多く設定することができたか。	B	
37	いじめや差別のない学級づくりと人権教育はできたか。	B	
38	教室環境の整備に努力ができたか。	B	
	10 校内研修など		
39	学校課題研究国語「学び合い、読む力を高める児童の育成」を目指して取り組むことができたか。	B	・学校課題研究2年目であり、「単元を貫く言語活動」の指導方法に意欲的かつ計画的に取り組めた。ブロックや専門部の成果と課題も共有できた。一人一役の研究発表会では、多くの参会者を得、全体会、分科会ともに盛況で、研究の成果を示すことができた。
40	研究組織や進め方は研究内容に応じて合理的・機能的にできたか。	B	
41	研究内容を日々の指導の中に生かし、自己の研鑽に努めることができたか。	B	
	11 職務遂行・服務(目指す教師へむけて)		
42	意欲的に職務に取り組むことができたか。	B	・報告・連絡・相談がよくできている。 ・学級経営がうまく機能しない状況下の学級に対して、全教職員の理解の下、人員の配置を考慮し、児童へのサポート体制を整えることができた。互いにつきを口にできる風通しのよい職場を今後もつくっていく。
43	報告・連絡・相談はしっかりできたか。	B	
44	教育公務員としての自覚を持ち、公務員倫理のもと、服務の厳正に努めることができたか。	B	
45	ゆとりをもった出勤ができたか。(出勤簿への捺印を含む)	B	
46	服装、言葉遣い、挨拶等は適切にできたか。	B	
47	出張や研修の報告は速やかに行うことができたか。	B	
48	組織の一員としての自覚に基づき、一人一人の責任を果たすことができたか。	B	
49	自己の健康管理はできたか。	B	
	12 環境、施設設備		
50	校舎内外の施設設備の整理整頓、修繕は適切にできたか。	B	・美しい清潔な教育環境が作られている。日常的な気付きも含め、安全に対する意識を今後も継続し高めていく。 ・教材見本の置き場を、空いている事務室の机上进行し、職員室整備の一助としていく。
51	清掃用具の片付けはしっかりできたか。	B	
52	教育効果を高める掲示ができたか。(学級・学年・特別教室など)	B	
53	安全点検・対応は適切にできたか。(担任→学年→安全部→管理職)	B	
54	美しい言語環境の推進はできたか。(対児童・保護者・来校者)	B	
55	職員室の共有スペースや、ロッカー、机上の整理整頓はできたか。	C	
	13 家庭・地域との連携		
56	保護者、PTAと協力ができたか。	B	・児童の手による学校応援感謝の会ができた。今後も、豊かな交流と支援活動を目指して充実させていく。 ・入間野小PTAのマスコットが保護者により発案され、児童のアイデアにより決まった。今後も協力体制を築いていく。
57	保護者・地域・学校応援団の力を生かすことができたか。(ボランティア年間計画の実施等)	B	
58	保育園・幼稚園、中学校、高校、公民館や図書館などの連携はできたか。	B	
	14 学校事務		
59	現金の取り扱いは細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理できたか。	A	・昨年度、新しい会計簿や報告のファイリングシステムを確立し、多くの眼で確認することができた。今後も、情報の管理について、校内規定を確実に遵守していくようにする。
60	情報の管理は適切にできたか。	B	